

(旧) 県民交流広場 全県オフィシャルホームページ 掲載記事

掲載コンテンツ：リレーコラム

掲載時期	平成 28 年 6 月
テーマ	活力ある尾上地区を目指して ～手づくりの広場と「尾上の朝市」を通じた地域の一体化～
寄稿者	加古川市 尾上県民交流広場推進協議会 会長 播本 達

1 加古川市尾上地区の特徴

加古川市尾上地区は、昭和 30 年代前半までは白砂青松の農漁村地域でした。高度成長期以降、オーミケンシ（※）や神戸製鋼所等が次々に立地されたことに伴って臨海部に工業地帯が広がり、工場関係者を中心に住宅地が広がりました。

※現在オーミケンシのある場所は「尾上飛行場」があった場所です。地元でも知らない方が多いですが、広場の西側にある尾上公民館横には、この石碑が建てられています。

現在、工場に勤めていた世代が高齢化を迎えたため、地域全体の高齢化が問題となっています。しかし、その一方で、京阪神や姫路への通勤にも便利な場所であることから、新しく地域に入ってくる住民も年々増えています。

このように、尾上地区は、昭和 30 年代以前から居住している方々、高度成長期に移住してきた工場勤務者を中心とした方々、新しく引っ越してきた方々が混在する地区となりました。しかし、お互いが交わることも少なく、地域コミュニティでの交流事業を進めていけるかどうか課題となっていました。

県民交流広場をスタートさせた理由は、幅広い層の地域住民が集い交流する場をつくることで、尾上地区を一体感、活力のある地区にしたいという思いがあったからです。

2 多目的ホールと手づくりの盛土

県民交流広場事業では、多目的ホールと事務室を含む施設を整備（新築）しました。このホールは防音のため、講演会や演奏会等を行うことができます。徐々に利用者が増えてきて、様々な団体がイベントを開催しています。随時開館しているので、今後も多くの方々に利用してもらいたいと考えています。

また、施設の周りには大きな盛土を設置しているのが特徴です。これは、海拔2メートルのこの地区の方々が津波発生時に避難できる場所となるようにつくったもので、また、平常時から防災意識を強く持ってもらうことも目的としています。約300人が上ることができるこの盛土は、子ども達が集まるにぎわいのある場所となっています。

この盛土の設置にあたっては、とても多くの方々に協力をいただきました。まず、市内の企業から約1000立方メートルもの土を提供してもらい、それを全てボランティアの手によって整地しました。現在は会館運営委員会を立ち上げ、定期的にそのボランティアにより除草作業等も行っています。



(多目的ホール)



(手づくりの盛土)

3 大盛況！尾上の朝市！

県民交流広場は平成26年度に整備が完了し、10月から「尾上の朝市」をスタートさせました。この朝市では、地元の野菜やノリ、タコ、わかめ、ちりめんといった海産物などを中心に販売しており、安くて新鮮なものが購入できることが特徴です。また、近隣中学校の吹奏楽部や地域の演奏者を招いての演奏会、わかば学園と連携したイベントなども併せて開催しており、今では毎回300人以上が訪れる大盛況のイベントとなっています。

また、朝市の運営は、町内会や地元の農家、漁協、企業のほか、小・中学校やわかば学園の方々に協力をいただき、全て地元ボランティアにより行っています。地域の方々と連携し、密着した活動となっていることも成功の秘訣です。

[尾上の朝市について]

- ・開催日 毎月第3日曜日 朝9時～11時
- ・場 所 尾上県民交流広場、尾上公民館周辺
住 所 加古川市尾上町池田1804-1
電 話 090-1134-1825 (会長 播本 達)
駐車場 あり (無料)
- ・出 店 概ね10店 (野菜、海産物、手作りお菓子、赤飯、アロマエステなど)



(尾上の朝市の様子)

4 これからの尾上地区の活性化に向けて

県民交流広場がスタートして以来、特徴的な盛土と「尾上の朝市」の成功等によって徐々に利用者が増えてきました。また、施設についてもっと詳しく知っていただくために「利用案内」を地区内で全戸配布し、さらに利用者を増やしていきたいと考えています。

また、今後は新たに、学校園の特別支援学級と連携した交流イベントを定期的に行うことや、若い世代のリーダー育成を目的とした「尾上未来塾（仮称）」の創設等にも取り組んでいきたいと思ひます。

わたし達が地域の手を借りながらつくった県民交流広場を最大限に活用し、尾上地区の将来を担う若い世代へしっかり引き継いでいくために、これからも積極的な活動を続けていきたいと思ひます。